



出前講座報告書

平成29年9月4日 福島県県北保健福祉事務所

NO. 2

PCM (Project Cycle Management) 手法の基礎② 既存事業計画の振り返りと見直し

④ 結果利用 ① 課題設定

評価

③ 調査実施 ② 調査計画

今回の講座では、PCM手法を用いて、地域のニーズにあった保健事業を立案するためのスキルを向上させることを目的としました。7月31日の基礎①の演習で取り組んだ問題分析、目的分析をもとに、事業評価の方法や指標などについて話し合い事業計画の立案を行いました。

講義の様子

基礎②では7月31日の講義や演習の振り返り、事業目標を立てる指針、横断研究などの調査方法の基本的な知識について学びました。



～講師紹介～



福島県立医科大学
総合科学教育研究センター
後藤あや

平成7年山形大学医学部卒業、平成10年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程（国際保健学）修了、平成12年山形大学大学院医学研究科博士課程（公衆衛生学）修了。

米国ポピュレーション・カウンシルのベトナム支部勤務を経て、平成14年より福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、平成28年度より総合科学教育研究センター教授に着任し、現在に至る。平成24年から1年間、ハーバード大学公衆衛生大学院武見国際保健プログラム研究員。福島県の県民健康調査「妊産婦に関する調査」の副室長兼任、日本公衆衛生学会モニタリング・レポートシステム委員。

専門領域は、母子保健、国際保健、疫学、人材育成。

グループワークの様子

7月31日の基礎①と同じメンバーでのグループワークで、事業評価の方法や指標などについて話し合いました。また、グループの代表者が残り、それ以外のメンバーが他のグループの話聞きに行くというワールドカフェの形式で他グループと成果を共有しました。



アンケート集計結果

| 評価項目 | そう思う* |
|---|---------------------|
| 研修の資料や進行について 配布資料は適切だった 時間配分は適切だった 進行は適切だった | 100% 90% 100% |
| 講義について 講義内容が理解できた 講義は今後の保健活動に役立つと思う 学んだことを同僚に伝えたいと思う | 95% 95% 100% |
| 話し合いについて 話し合いは今後の保健活動に役立つと思う | 100% |
| あなたご自身について 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う | 57% 42% |
| 今後の研修に向けて 今日のような研修にまた参加したいと思う この研修への参加を同僚にお勧めしたいと思う | 95% 95% |

参加者は23名

アンケート回収は23名

* 復習ポイント *

- ・ 事業目標を立てる指針 (米国Healthy People 2020)
- ・ 横断研究とは？
- ・ 調査方法の種類



* 5段階評価：「1. 全くそう思わない」～「5. 大いにそう思う」の4と5の合計

編集後記

PCM手法の基礎の2回目でした。所属する自治体や部署は異なる参加者がそれぞれの視点でグループワークに取り組んでいました。また、2回の演習を通して事業計画の立案を経験することができ、事業を計画する上で意見を交換することが重要であることを学ぶことができました。この意見交換の積み重ねが地域のニーズにあった事業を計画することにつながると思います。(吉田)